「プレートテクトニクスの拒絶と受容 ── 戦後日本の地球科学史」

□ □ □
f□ □G □Z □ □
2008 □ 6D，268p.
A□ □ 3,800 □（本体価格）
ISBN 978-4-13-060307-2

東京大学名誉教授・日本学士院会員　上

（PT）の受け入れが先進諸国に 10 □ □ □ □ □ □ □ h□ □ □ w□ j□ □ □，科学史的見地から本格的に論じた初めての著作．

20 H D □ R w「地球観革命」は「狭義の PT」と，その地質学への応用「広義の PT」の 2 □ □ t□ □ Z □ □ □ U Z R □ O．前者は固体地球表層部の運動学であり，後者はそれに基づく造山作用などに関する理論である．地球物理ではどんなに革命的であっても“real time”の観測事実は“無思想的？”に受容されるのが原則であるのに対し，地質学では現状の観察から“real time □ □ w□ s□ M □ Ma□ □”を探るのだから，ものの見方が重要な働きをする．地層の観察などからは，過去の事象の時系列，上下変動などに比べると，水平移動は著しくわかりにくいだろう．従って，伝統的な造山論では大規模な水平運動は考慮されなかった．だから，大規模な水平移動を眼目とする「PT」を受容するか否かは大問題だったに違いない．「革命」の受容には，しばしば時間がかかった．しかし，英米などではそれが 2-3 □ □ S□ p□ K□ L□ h□ □ w□ U，我が国での「改宗？」にはなぜ 10 □ □ □ □ A□ h□ w□ T□ □ □ □ x□ □ L□ t□ U □ □ h□ w□ p□ K□．それにはいくつかの原因があったが，戦後澎湃として興った研究民主化の波に乗じて発足した「地学団体研究会」（地団研）の影響が最大であったという．発足当初，都城秋穂なども参加した地団研の理想主義の意気込みが，その勢力拡大と共に次第に劣化し，カリスマ井尻正二への個人崇拝へと堕していった過程は，評者にはソ連崩壊とともに滅び去った人民民主主義の国々の運命の縮図と映る．

井尻は，評者には理解困難なことだが，信奉した唯物弁証法からの結論として，自然法則の歴史不変性を否定した．従って「法則の不変性」に基づいて資本主義国で生まれた「PT」を彼や地団研が拒否したのは当然だったが，その支配力は大きかった．地質学界は，「PT」を受容した人がいても，それを発言できないという今では信じがたい状況に支配されたのである．

評者は地球物理学徒だから地団研の支配をうけることはなく，彼ら独特の「地向斜造山論」や日本海成因論などをめぐって，いくたびか論争を試みたが，実際には彼らの論拠はほとんど理解できず，後年「一種の知的活動ではあるらしいが，どうもサイエンスとは異質の作業であるらしい」とどこかに書いたと本書に引用されている．その後 1980 □ E □ R t□ s□ L□ o□ □ O □ □，勘米良亀齢，平朝彦他による「PT」に基づく日本列島成因論など，すなわち「PT」そのもの，が広く受け入れられるようになった．

評者は「PT」以前から，地球物理学と地質学とはもっと一体となるべきと主張してきた一人だが，「PT」の効用の最たるものは，地球科学の世界に相互理解と協力関係を実現したことだろう．日本地球惑星科学連合の誕生はその大きな成果だし，最近の高橋雅紀の日本地質構造論などは評者の知る一果実である．

著者は日本の地球物理はもともと先端的であったから「PT」受容には抵抗がなかったとしている．確かにその面はあっただろうが，当時，先走って「PT」樹立の渦中にあった評者には，地球物理仲間からも「都合の良いデータだけ並べて，□ □ □ □ □ □ □ t□ □ T□ b□ 0□，□ w□ F□」などとの批判は少なからずあった．著者の東大地球物理学科卒業，朝日新聞社入社の 1967 □ □ M □ y□，既にメディアなどでも「動的地球観」は普通に語られており，彼も直接地団研の支配を体感することはなかったようだ．それだけに問題を冷静に科学史的にとらえるには適切な立場であった．長年の記者経験に支えられた文章の明解さも見事なものだ．日本の「PT」受容の遅れは国際的にも謎なのだから，是非英語版も出していただきたい．

プレートテクトニクスの
拒絶と受容
好評3刷
戦後日本の地球科学史
泊 次郎 3990円
日本の地質学界におけるプレートテクトニクス受容の遅れを、さまざまな資料を駆使して歴史的に検証。

火山爆発に迫る
噴火メカニズムの解明と火山災害の軽減
井田喜明・谷口宏充編 4725円
観測・実験・シミュレーションの最前線から防災まで、噴火現象の全体像を体系的に解説。

地球惑星システム科学入門
鹿園直建 2940円
『地球システム科学入門』の改訂版。惑星・宇宙までを含めたより広い視野から、自然－人間相互作用まで解説。

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1 東大構内
東京大学出版会
TEL 03-3811-8814 FAX 03-3812-6958
http://www.utp.or.jp/ [価格税込]